

【棚卸しの概要】

- 1 令和5年度に実施した「予算事務事業の棚卸し」では、すべての予算事務事業(約3,000事業)を対象に、市民ニーズや社会経済情勢の変化、生産性・費用対効果、官と民の役割分担、内部管理経費の見直し等の観点から総点検を実施しました。
結果として、1,288事業、151億円の見直しを行ったものです。

【棚卸しの効果】

- 2 この予算事務事業の棚卸し等により生み出された財源を活用して、令和6年度予算では、
 - ・若者や子ども等への投資、
 - ・産業基盤の強化・創出、
 - ・公共施設等の老朽化対策への持続可能なまちづくり投資等の新規・拡充事業「次世代投資枠」を111億円確保するなど、「財政の模様替え」すなわち「創る改革」が進んだことが、予算事務事業の棚卸しの効果と考えています。

3つの柱別では、次世代投資枠を活用し、例えば、次の事業でそれぞれ効果的に事業を実施することができました。

【若者や子ども等への投資】

第2子以降の保育料無償化(R6決算額:578,195千円)

学校給食の魅力向上(おいしい給食大作戦)(R6決算額:229,798千円)など

【産業基盤の強化・創出】

空港アクセス強化事業(R6決算額:119,616千円)など

【公共施設等の老朽化対策への持続可能なまちづくり投資等】

若戸トンネル長寿命化事業(R6決算額:772,314千円)など

【棚卸しの課題】

- 3 一方、予算事務事業の棚卸しについては、既存事業の見直しに伴う市民生活への影響等について慎重に検討するとともに、関係者への丁寧な説明を行うなど、適切に対応してきたと認識しております。
- 4 また、予算事務事業単位での点検にとどまるのではなく、より大きな施策・政策の観点から市政変革を実行することが重要な課題であるため、令和6年度からは、
 - ・各局長・区長が経営者の目線でそれぞれの変革課題を設定、実行する「局区X方針」
 - ・政策をテーマごとに絞り、他都市の事例などから今後の方向性について多角的な分析を行う「経営分析・事業分析」の取組みを新たに導入するとともに、その検討過程については、公開の市政変革会議(X会議)を設けて、市民に開かれた議論を行っているところです。

以上